

やまぐちっ子学力向上だより

第136号 R5.10.30

山口県教育庁義務教育課

対話を通した学びを実現させるために

授業づくりについて、先生方とお話をする中で、このようなことをよくお聞きします。

「子ども同士の対話の場面なのに、それぞれが自分の考えを話すだけになってしまう」

対話の中で、子どもが互いの考えを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりするような姿を実現するのは難しいと感じておられる先生方も多いようです。このような状況が生まれる要因や解決の糸口は、様々なものが考えられますが、本号では、全国学力・学習状況調査の報告書の授業アイデア例の対話場面を参考に考えてみたいと思います。

対話のスタートは、子どもの「知りたい」「困った」から

小学校国語の授業アイデア例では、次のような対話場面が示されています。



問題点と解決方法を書いたけれど、問題点について、もっと明確に書きたいな。
どのように書いたらいいかな。



向井さん

調査カードに書いてある調査結果も詳しく書くといいと思うよ。その調査結果をみて、石山さんに聞きに行こうと思ったんだね。専門家に聞くことで、問題点が明確になったね。



水野さん

そうだね。カード④の石山さんのお話も入れた方がいいね。雑草が増えとどんな問題があるのかということを書くと、問題点としての説得力が増すね。



ありがとう。調査結果を書いたり、専門家にインタビューをしたことを書いたりするなど、複数の情報を基にして書くと、考えがより明確に伝わるね。もう一度、書いてみるね。

令和5年度全国学力・学習状況調査報告書〈小学校国語〉より

注目すべきところは、対話のスタートで、「どのように書いたらいいかな」と、子どもが対話を通して解決したいという目的意識をもっているところです。目的意識をもっていれば、自分から尋ねたり、友達の考えを分かるまで聞こうとしたり、よい考えを取り入れようとしたりすることにつながるはずですが、このような目的意識をもった対話を生むために、次のようなことに取り組んでみましょう。

□「対話を通して解決したいこと」を見付けるための一人学びの場を設ける。

一人学びの場で自分の考えをつくりあげると、対話する目的をもつことができず、考えを話すだけになってしまう子どもは少なくありません。一人学びでは、学習課題に対して、よく分からないことや友達に聞いてみたいことも合わせて考えさせると、目的意識のある対話が生まれると考えられます。

□子どもが対話を求めている瞬間を見取り、対話を促す。

授業づくりの際には、あらかじめ対話場面を想定すると思いますが、実際の授業では、そことは違う場面で、子どもの「知りたい」「困った」が生まれることもあります。想定にとらわれることなく、子どもの姿を見て柔軟に対応したいものです。

連載

授業力向上実践研究指定校の取組と成果②

ICTの活用が授業力向上の背中をおす ～周防大島町立大島中学校～

授業力向上実践研究指定校の取組や成果を紹介する連載の2回目です。

9月22日(金)に周防大島町立大島中学校において、「ICTの効果的な活用による主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善」を研修主題に掲げ、授業研究会が開催されました。大島中学校の特徴は、**授業と研修の両方でICTが効果的に活用されていた点**です。

授業

研究会当日は、安村勇紀教諭による1年理科、水野一也教諭による2年英語科、竹中俊平教諭による3年社会科の授業が公開されました。授業では、**1人1台端末内のポートフォリオシートを使って振り返りをする場**が設けられていました。

- ・ポートフォリオシートには、「今日の授業で一番大切なこと」「疑問や調べたいと思うこと」等、**振り返り際のポイント**が示されている。
- ・理科の「水溶液」の単元では、ビーカーに溶けた溶質の様子を図で毎時間示す箇所を設けるなど、**自身の学びの変容が分かるよう**にされている。

このような工夫により、研修の副主題である、**自己調整力の育成・協同学習・個別最適化**が図られていました。

また、1人1台端末で管理することで、授業者が子どもの実態を把握しやすく、学習内容の理解や自己調整のための働きかけが充実するというよさもありました。



ポートフォリオシート

研修

研修では、授業の参観者が、**参観しての気づきをリアルタイムでJamboardに投稿する**取組をされていました。このことにより、授業の見方や様々な気づきが集約され、授業改善の方策を共有することにつながっていました。



Jamboard を用いた研修

連載

若手教員スキルアップ研修を生かして②

深い学びへ ～黒石小学校・松田先生～

8月の若手教員スキルアップ研修の成果を授業において発揮されている先生方を紹介する連載の2回目です。

宇部市立黒石小学校 松田杏子先生

第2学年 国語科「ようすをあらわすことば」

授業の中で、「その言葉を選んだ理由もお話できるといいね」と意図をもって言葉を選ぶことができるようにする声掛けを何度もされていました。松田先生に、研修で学んだことをどのように生かしておられるかをお聞きました。

「はじめは、クイズ形式で言葉を選ぶ活動を考えていたのですが、研修の中の指導案検討で、『深い学びにするための工夫があるのではないか』というアドバイスをもらいました。そこで、『様子にぴったりの言葉を選ぼう』と投げ掛けました。『ぴったり』ということで、子どもがよく考えて言葉を選ぶように働きかけることができました。」

